

## 楷書の古典に学ぼう

牛橛造像記

北魏時代 四九五年



妙樂自在之 (処)

(部分・縮小)

鄭義下碑

北魏時代 五二一年



(桓) 武。並美司徒。

(部分・縮小)

孔子廟堂碑

虞世南 唐時代 六二八〜六三〇年頃



皇帝欽明睿哲。

(部分・原寸)

九成宮醴泉銘

欧阳詢 唐時代 六三三年

東越青丘南 (踰丹傲)

### 楷書の特徴と書風の比較

現代では、日常生活のほとんどの書写場面で楷書が使用されています。楷書は一点一画がはっきりしていて読みやすいのが特徴で、漢字の五つの書体の中で最も遅れて成立した書体です。

上の図版はいずれも楷書の古典です。同じ書体でありながら、表情が違うことに気づきませんか。書におけるこのような表情の違いを書風といいます。書風は、書かれた時代や地域、あるいは作者の美意識などによって形成され、作者各々の表現方法や使用する用具・用材などによって個人的に彩られます。それぞれの古典から、どのような特徴や美しさを感じられるでしょうか。用筆法や字形の違いに着目し、それぞれの書風について話合ってみましょう。

#### 楷書の基本用筆

- ① 起筆 (きひつ)
- ② 送筆 (そうひつ)
- ③ 收筆 (しゅうひつ)



#### 用筆法について

九成宮醴泉銘

歐陽詢 唐時代 六三二年



東越青丘南 (踰丹傲)

(部分・原寸)

雁塔聖教序

褚遂良 唐時代 六五三年



比其清華仙露

(部分・原寸)

顏氏家廟碑

顏真卿 唐時代 七八〇年



(諱)騰之字弘道

(部分・縮小)

用筆法について

直筆…筆管を垂直に立てて書くこと。

側筆…筆管をやや傾けて書くこと。

露鋒…穂先が点画の端に現れる起筆。

蔵鋒…穂先を逆から入れ内側に包み込むようにした起筆。

字形について

背勢…画の中程を内側に引き縮めた形。



《背勢の例》九成宮醴泉銘

向勢…画の中程を外側にふくらませた形。



《向勢の例》顏氏家廟碑

方勢…起筆や収筆、転折を角張らせた形。



《方勢の例》牛櫃造像記

円勢…起筆や収筆、転折に丸みをもたせた形。



《円勢の例》鄭羲下碑

# 行書の古典に学ぼう

蘭亭序 王羲之 東晋時代 三五三年

永和九年歲在癸丑暮春

永和九年。歲在癸丑。暮春（之初）。

(部分・原寸)

争坐位文稿 顏真卿 唐時代 七六四年

魯郡開國公顏真卿

魯郡開國公顏真卿

(部分・縮小)

蜀素帖 米芾 北宋時代 一〇八八年

連上松端秋花起

(牽)連上松端。秋花起(絳烟)

(部分・原寸)

## 行書の成立

行書は、楷書を少しくずしてできた書体と思われがちですが、その成立は楷書より早く、漢時代に★隷書をやや速く簡略に書く中から芽生えた書体です。その後簡略体として書法に磨きがかかった行書は、四世紀東晋時代の王羲之によって、芸術的に高められたと考えられています。

王羲之に先行する行書の例

樓蘭晋簡 西晋時代

張鈞言敦煌太守

(部分・原寸)

(從掾位)張鈞言。敦煌太守 □

★8・68ページ参照

## 行書の書風の比較

行書は、点画の連続や省略から生まれる流動美と変化に富んでいます。それぞれの古典から、どのような特徴や美しさを感じられるでしょうか。用筆や連筆、線質の違いなどに着目し、それぞれの書風について話し合ってみましょう。

## 行書の特徴

★ 平安時代の三筆 ★ 50ページ参照

風信帖 空海 平安時代 八二二年頃



恵止観妙門

(部分・縮小)

光定戒牒 嵯峨天皇 平安時代 八三三年



無明長夜戒光為炬

(部分・縮小)

伊都内親王願文 伝橘逸勢 平安時代 八三三年



飛便超苦海

(部分・縮小)



(部分・原)

行書の特徴

行書は楷書より速く書け、草書より読みやすい書体で、次のような特徴があります。

五つの特徴

行書 (集王聖教序) 楷書 (九成宮醜泉鏡)

① 点画や字形が曲線的である



② 点画が連続することがある



③ 点画が省略されることがある



④ 点画の形や方向が変化することがある



⑤ 楷書とは筆順が違ふことがある

